

平成 22 年度 新学術領域研究（研究領域提案型） 審査結果の所見

研究領域名	がん微小環境ネットワークの統合的研究
領域代表者	宮園 浩平（東京大学・大学院医学系研究科・教授）
研究期間	平成 22 年度～平成 26 年度
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>個々のがんにはそれぞれの特徴が備わっているが、その特徴はがん自身とその周囲の間質との関連により決定される。そのがんを取り巻く微小環境は免疫細胞、線維芽細胞、血管、リンパ管といった多彩な組織から構成されているため、総合的な理解のためには様々な背景をもつ研究者が集結する必要があるが、これまでこの点に着目し多角的に解析を行った研究は見られない。本研究領域は、がんのみならず、がん周囲の微小環境を含めて統合的に解析を行い、革新的ながんの制御機構を開発することを目的としている点が評価できる。</p> <p>臨床ではこれらのがん微小環境を標的とした治療方法が用いられていることから、この研究領域のテーマは緊急性とともに必要性の高い研究と考えられる。またこの目的の達成のためには様々な研究者の連携が必要不可欠であり、この点からも新学術領域研究に相応しいものであると言える。さらに本研究領域を構成する計画研究の研究代表者は、各々の分野で世界トップレベルの研究成果を挙げてきた研究者であり、良好な組織が構成されることが期待できる。領域代表者も世界的に高く評価される研究者であり、これまでの実績やがん研究の世界的動向を広く認識できる立場にいることから、適切なマネジメントやリーダーシップが期待できる。以上のことから本研究領域はがんに対する新たな治療戦略の構築やがん研究の新しい方向性を切り開くことが期待できる。</p>